

- 1 トウジン 52 液にリン酸10 mLを混和する.
- 2 Codonopsis Root 53
- 3 CODONOPSIS RADIX 54
- 4 党参
- 5 本品はヒカゲノツルニンジン *Codonopsis pilosula*
6 Nannfeldt 又は *Codonopsis tangshen* Oliver
7 (*Campanulaceae*)の根である.
- 8 生薬の性状 本品は、ほぼ円柱形で、長さ8~30 cm、径0.5~
9 2.5 cm、先端に向かって漸次細くなり、しばしば分枝する。
10 外面は淡黄色~灰褐色で、基部から中央部にかけて輪状の横
11 じわがあり、全体に明瞭な縦じわが認められる。根頭部には
12 茎の跡からなる突起が多数あり、頂部は丸く窪む。側根の跡
13 にはしばしば黒褐色の膠状の分泌物が存在する。質は柔軟で
14 屈曲しやすいか又は堅く折れやすい。断面は皮部が黄白色~
15 淡褐色、木部が淡黄色を呈し、皮部に裂隙が認められること
16 がある。
- 17 本品はわずかに特異なおいがあり、味はやや甘い。
- 18 本品の横切片を鏡検(5.01)するとき、最外層はコルク層
19 で、外側の1~10細胞層はコルク石細胞からなる。師部には
20 淡黄色の内容物を含む乳管群が放射方向に配列し、通例、細
21 胞間隙が認められる。木部の道管は放射方向に配列する。師
22 部の柔細胞中には通例、でんぷん粒及びビヌリンの結晶が含
23 まれる。
- 24 確認試験 本品の粉末2.0 gをとり、水50 mLを加え、水浴中
25 で1時間加熱する。冷後ろ過し、ろ液を酢酸エチル20 mLず
26 つで2回洗浄する。水層を分取し、水飽和1-ブタノール30
27 mLずつを用い2回抽出する。水飽和1-ブタノール層を合わ
28 せ、水浴中で減圧乾固する。残留物をメタノール1 mLに溶
29 かし、試料溶液とする。この液につき、薄層クロマトグラフ
30 ィー(2.03)により試験を行う。試料溶液5 µLを薄層クロマ
31 トグラフィ用シリカゲルを用いて調製した薄層板にスポッ
32 トする。次に1-プロパノール/水/酢酸エチル/混液(6:
33 5:2)を展開溶媒として約10 cm展開した後、薄層板を風乾
34 する。これにナフトレゾルシン・リン酸試液を均等に噴霧し、
35 105 °Cで10分間加熱するとき、*R_f*値0.5付近に橙色~赤紫色
36 のスポットを認める。
- 37 純度試験
- 38 (1) 重金属(1.07) 本品の粉末3.0 gをとり、第3法によ
39 り操作し、試験を行う。比較液には鉛標準液3.0 mLを加え
40 る(10 ppm以下)。
- 41 (2) ヒ素(1.11) 本品の粉末0.40 gをとり、第4法により
42 検液を調製し、試験を行う(5 ppm以下)。
- 43 乾燥減量(5.01) 23.0 %以下(6時間)。
- 44 灰分(5.01) 5.0 %以下。
- 45 酸不溶性灰分(5.01) 1.5 %以下。
- 46 エキス含量(5.01) 希エタノールエキス 25.0 %以上。
- 47 貯法 容器 密閉容器。
- 48 -----
- 49 9. 41 試薬・試液の項に次を追加する。
- 50 ナフトレゾルシン・リン酸試液 1,3-ジヒドロキシナフタレ
51 ン0.2 gをエタノール(99.5)に溶かし、100 mLとする。この